

## デンマーク UN17 Village

# 17の目標すべてを体現する、持続可能なエコ・ビレッジ



## 環境先進国デンマークのSDGsの捉え方

デンマークは、SDGsランキングの常にトップに位置し、「Too Good to go」という食品ロスの削減運動や、オーガニック食材の使用など、SDGsに先進的に取り組んできました。政府も「グリーン投資基金」によって、環境保全に取り組む企業に融資を行ってきました。

そして現在、「建築段階だけでなく人が住みやすいように、資源や産業、生活から社会までが総合的に持続可能なライフスタイル」を目指したプロジェクトが進められています。都市の発展のために、環境を犠牲にする必要はないということを示してくれる点で、大きく注目されています。

## 「UN17 Village」持続可能なエコ・ビレッジ構想

UN17 Village は2023年に、コペンハーゲン南部に完成予定であり、デンマークの建築事務所Lendager Groupを中心に計画が進められています。

このエコ・ビレッジでは、400戸の建物の材料に、リサイクルのコンクリート・ガラス・木材を使用しています。世界で生じるゴミの40%以上が建造物の廃棄物や汚染物質であるという事実を踏まえ、建築のプロセスで有害な物質が発生しないようにしています。

また、全ての建物の屋上にソーラーパネルを設置し、自家製エネルギーだけで賄えるようにしています。屋上には、生物多様性を守るために、様々な生き物の住処となる庭園も設置される予定です。

他にも、共同キッチン、ワークスペース、ゲストハウス、雨水を使用したコインランドリーなどが創られる予定であり、人々の健康やQOL(クオリティ・オブ・ライフ)にも考慮したものとなっています。



UN17 Village [Sweco Denmark, NREP, Lendager, MOE, SLA, CG Jensen提供]

## 環境・経済・社会に貢献する「アップサイクル資材」

建築に使われるリサイクル材料は「アップサ

イクル資材」と呼ばれます。「アップサイクル」とは、単なるリサイクルではなく、「元の製品よりも次元・価値の高いものを生み出すこと」を目的とした考え方です。

捨てられるはずだったモノに、新しい価値を加える取り組みは、ゴミという概念をなくし、どんなモノも資源と考えることに繋がっています。最終的には、自然と同じように循環する街をつくり、ごみの排出量をゼロに近づける「ゼロウェイスト」が目指されています。

また、ビレッジ内で廃材が出た時には、地域の住民を雇い、アップサイクル資材にするための加工が行われます。地域の雇用を生み、経済にも貢献するという意味で、社会的に見てもサステナブルな取り組みです。

このように、環境・経済・社会の3つの側面が意識された、まさにSDGsモデル都市となることが期待されています。

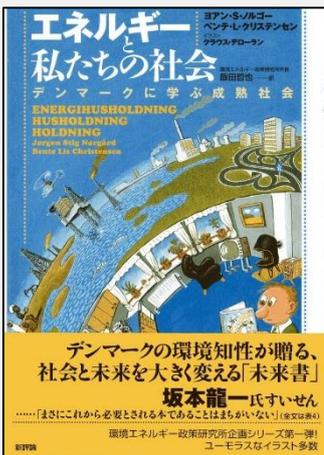
## 幸福度の高い小さな国

正式名称はデンマーク王国。ヨーロッパ北部に位置し、ノルウェー、スウェーデン、ドイツと国境を接しています。面積は約4.3万km<sup>2</sup>と、九州とほぼ同じ大きさでありながら、SDGsランキングでは毎年1～3位に入っています。また、税金が高い分、国民への還元も高く、福祉や教育は充実しており、世界幸福度ランキングでも常にトップに入っています。

### 出典・参考文献

- イマココラボ, 2019, 「SDGsを”体現”する村をつくるプロジェクト「UN17 VILLAGE」 in デンマーク」 <https://imacocollabo.or.jp/sdgs-case/un17-village/>
- 森あおい, 2019, 「SDGsの「17目標すべて」に取り組む。デンマークのエコ・ビレッジ建設プロジェクト」 IDEAS FOR GOOD <https://ideasforgood.jp/2019/01/31/un17village/>
- リボンハーツクリエイティブ, 2020, 「SDGsの全目標達成に貢献する村『UN17 Village』」 <https://www.rhcnet.com/article/20201225d.html>
- SWECO, “UN17 Village” <https://www.sweco.dk/showroom/un17-village/>

## オススメの一冊



### エネルギーと私たちの社会：デンマークに学ぶ成熟社会

ヨアン・S.ノルゴー, ベンテ・L.クリステンセン [著]；飯田哲也訳  
(新評論, 2002年)

【請求記号】5000:1247

世界は無限の経済成長ではなく、足ることを知り、生産と消費を抑え、持続できる世界を選択するという、今までの価値観とは違う視点を紹介している。持続可能な社会に向けて、私たちが自分自身の暮らしを見つめ直し、価値観を問い直し、同時に社会に働きかけることで、社会と未来を大きく変えることができるという希望を与えてくれる本です。

## 執筆者紹介

櫛田真帆／社会学部 3年

サークルはPro-K、MOS

美術館巡り、街歩きが趣味

